

# 創志会だより No.3

発行責任者 長野県議会 創志会 会長 保科徹教 〒380-8570 長野市南長野幅下692-2 長野県議会議棟 TEL 026-232-0111(内線 4084) FAX 026-235-8852 E-mail jimu2@soushikai.net ホームページ http://www.soushikai.net/



新潟県庁で公衆衛生等を調査

5月7日、創志会の県外調査が県民クラブ・公明の会派議員も参加して、新潟県で行われました。新潟県では歯の健康が全ての健康の原点であることを重視して、全国に先んじて乳歯から永久歯に生えかえる学齢期に、フッ化物洗口事業に取り組んできました。2006年12歳児の平均むし歯数は0.99本という日本一の快挙を成し遂げました。新潟県の歯の健康予防、公衆衛生科衛生、および学校現場でのフッ化物洗口等の先進事例を視察研修し、県民

## むし歯が全国一少ない新潟県！ 弥彦小学校で フッ化物洗口事業を視察

8年連続でむし歯が全国一少ない新潟県のきっかけとなった弥彦小学校では、フッ化物洗口の模擬洗口の実施を、私たちの調査に合わせて時間調整していただき、校内歯科診療室など現況を視察することができました。新潟県では歯科医の

### 歯は健康の バロメーター

資格を有する職員5名、歯科衛生士3名が職員として歯科保健衛生の取組みに参画していました。歯及び口腔の健康は、単に食物を咀嚼するという点からだけでなく、全身の健康に影響を与えるものです。歯は健康



フッ化物洗口の模擬洗口中の児童(弥彦小学校)

富山県では、学力向上と産業振興対策、高校再編、青少年保護育成条例などを調査しました。適切な産業振興策が実施され、教育に力を入れ人材の育成に努力してきた結果、有能な人材をもとめて企業進出があったようです。現在では1人当たり県民所得は、3,097千円、全国7位で全国平均をうわまっています。かつて教育県といわれた長野県と富山県、その評価を失った長野県と、それを維持している富山県の差が結果として産業振興など、いろいろな面に現れていると感じ

## 富山県 学力向上と 産業振興対策を調査

るための基礎でもあることを最重要視した施策は、わが県と大きく違う点でありました。



石井富山県知事と懇談

ました。高校再編の推進には、富山県では少々の反対はあるようですが、県教委から示された5つの統合計画が実現しようとしています。

石井知事は長野県と良好な友好関係を続け、一層連携を深めていきたいと冒頭に話されました。また、レジ袋の有料化を全県一斉に実施し、最初は多くの反対や混乱も予想されたが、マイバッグ持参率は92%と県民の協力が得られていると報告されました。石井知事との懇談は、金子ゆかり政調会長が石井知事と、早稲田大学で師弟関係であったことから実現されました。

### 良好な友好関係を 富山県知事と懇談



大盛会の地方自治政策課題研修会

7月10日、県庁講堂において県下の市町村議会議員、理事者、病院関係者、職員ら約550名余が参加され、第4回長野県地方自治政策課題研修会が開催されました。本年度は二元代表制において、責任ある議会や議員の役割を担えるために、議会基本条例の必要性を探ることも含め、東京大学名

## 県下各地から550名余が参加 第4回長野県地方自治政策課題研修会

誉教授の大森彌氏に講演をいただきました。また、医師不足問題は地域住民の安心安全を守れないばかりか、病院機能や経営の崩壊にまで及ぶ影響など深刻な問題です。多種多様な問題を抱える地域医療に取り組みされている、(株)フェーズワン社長の福山智子氏の講演と意見交換をしました。この研修会は県議会各会派から選出された委員の実行委員会により、今後の地方自治の諸課題解決に向けて協議を重ねて実施されたものです。これからは党派を超えた活動を通じ、県民に分かりやすい開かれた議会を目指していきます。

## 新幹線飯山駅予定地 建設中の新クリーンセンターなど 北信地区現地調査

6月16日北信地区の課題箇所や懸案箇所の調査を行いました。まずは起工式が行われたばかりの新幹線飯山駅建設予定地の周辺整備の現地調査を行いました。次に地域住民の同意のもとに整地し建設を待つだけになっていましたが、田中知事が県としての国への補助金申請をせず、計画が頓挫していた岳北広域行政組合の「新クリーンセンター」の建設工事現場も調査しました。わずか数年とはいえ、事業が遅れたための経費は馬鹿になりません。行政のトップの判断が如何に重要であるか思い知らされた現場でもありました。

### 元気づくり支援金 活用例を調査

調査をした日にオープンした飯山市の本町に、地域の皆さんのアイデアで設置された「六斎市広場」の現地調査を行いました。この六斎市広場は県の元気づくり支援金を活用して、広場の一部に雨よけの施設などを設置し、地域の皆さんがそれぞれ自ら生産した野菜や特産品などを持ち寄り、2と6の日に定期的に市を開催するというものであります。元気づくり支援金の有効活用された事業の継続が期待されます。



にぎわう六斎市広場